
中心市街地活性化基本計画 令和6年度最終フォローアップ報告

令和7年9月

内閣府地方創生推進事務局

目 次

I. 中心市街地活性化基本計画 令和6年度最終フォローアップの概要 ……	1 ページ
II. 計画期間終了後の中心市街地活性化基本計画の評価 ……	2 ページ
(1) 事業の進捗・完了状況及び活性化状況に係る自治体の自己評価	
(参考①) 中心市街地活性化協議会からの評価	
(参考②) 市民からの評価、市民意識の変化	
III. 目標指標分野別分析結果の概要 ……	4 ページ
(1) 集計結果	
(2) 事業の進捗状況	
(3) 目標達成の状況	
(4) 基準値からの改善状況	
IV. 事業の進捗・完了状況及び目標達成状況に関する各自治体からの報告	10 ページ

I. 中心市街地活性化基本計画 令和6年度最終フォローアップの概要

最終フォローアップについて

- 国の認定を受けた中心市街地活性化基本計画では、各自治体が複数の目標を掲げている。各目標においては、その達成状況を的確に把握できるように、定量的な指標（目標指標）を設定している。
- 当該基本計画については、各自治体自らが計画期間満了後に、事業等が予定通り完了したのか、目標は達成されたのか等を自己評価（最終フォローアップ）として報告することとしている。
- 最終フォローアップによって明らかとなった評価結果を踏まえ、必要と認められる場合には、新たな基本計画の作成を含め中心市街地の活性化に資する取組を引き続き継続的に実施していくことが重要である。

令和6年度最終フォローアップ対象計画

15市 15計画 45指標 （詳細はP.10に掲載）

（平成30年度に2計画、令和元年度に13計画を策定。いずれも終期は令和7年3月末。）

【参考：令和5年度】7市町 7計画 22指標

事業の進捗状況と目標達成状況に関する集計結果

- 最終フォローアップ対象45指標全てが、事業が概ね予定通り完了となった。
- また、目標達成状況については、基準値※より改善した指標が29指標（64%）、目標の達成に至った指標が17指標（38%）であった。

※基準値とは基本計画策定時の設定数値

	事業が概ね予定通りに完了した	事業が予定通りに完了しなかった	合計
基準値より改善 <small>（注1）</small>	29指標（64%） 〔11指標（50%）〕	0指標（0%） 〔0指標（0%）〕	29指標（64%） 〔11指標（50%）〕
うち目標達成	17指標（38%） 〔9指標（41%）〕	0指標（0%） 〔0指標（0%）〕	17指標（38%） 〔9指標（41%）〕
うち目標未達成 （基準値以上）	12指標（27%） 〔2指標（10%）〕	0指標（0%） 〔0指標（0%）〕	12指標（27%） 〔2指標（10%）〕
基準値より悪化 <small>（注1）</small>	16指標（36%） 〔5指標（23%）〕	0指標（0%） 〔6指標（27%）〕	16指標（36%） 〔11指標（50%）〕
合計	45指標（100%） 〔16指標（73%）〕	0指標（0%） 〔6指標（27%）〕	45指標（100%） 〔22指標（100%）〕

※表中の〔 〕は令和5年度の状況。

※各項目において四捨五入しているため合計とは一致しない場合がある。

（注1）目標値を現状数値の悪化率の抑制としている目標指標については、目標値と比較して数値が大きい場合には、「目標達成」、目標値には満たないものの目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より大きい場合には「基準値より改善」、目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より小さい場合には「基準値より悪化」として算出する。

II. 計画期間終了後の中心市街地活性化基本計画の評価

各自治体が市街地の状況や中心市街地活性化協議会及び市民の意見等を参考に、事業が順調に完了したかどうか、また、中心市街地という単位で活性化が見られたかどうかについて総合的な評価を行った。

(1) 事業の進捗・完了状況及び活性化状況に係る自治体の自己評価

- 対象15市15計画のうち15計画すべてが、事業が概ね予定通り進捗・完了したと判断されている。
- 対象15市15計画のうち13計画について、各自治体の自己評価により中心市街地の活性化が見られたとされている。

【事業の進捗・完了状況】

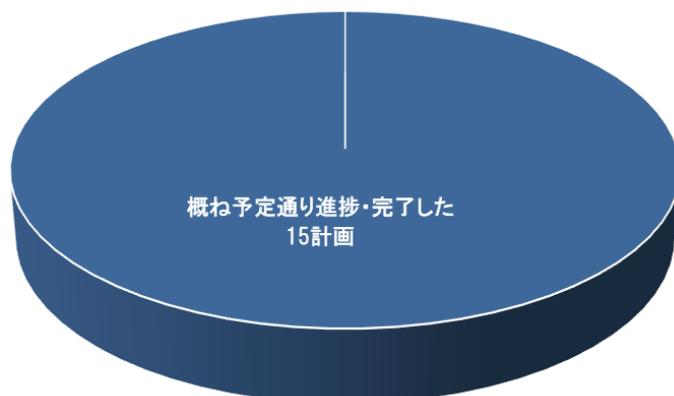
(計画期間終了後の状況)	概ね予定通り進捗・完了した	予定通り進捗・完了しなかった
計画数 (全15計画)	15計画	0計画

【活性化状況】

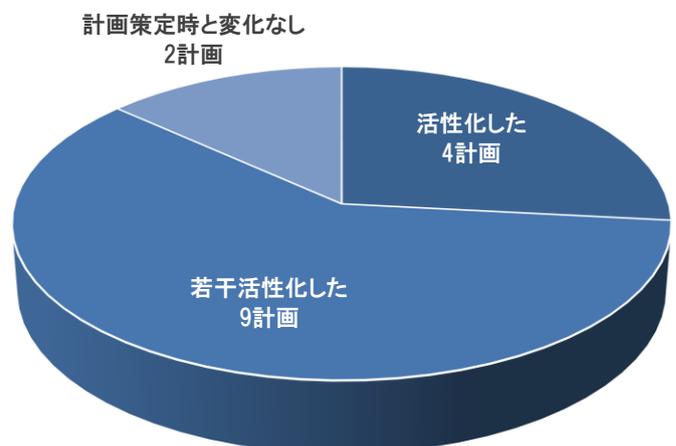
(計画期間終了後の状況)	活性化した	若干活性化した	計画策定時と変化なし	計画策定時より悪化
計画数 (全15計画)	4計画	9計画	2計画	0計画

※事業は予定通り完了したのか、また中心市街地の活性化は見られたのかを、個別指標毎ではなく、総合的に自治体が判断したものを。

【事業の進捗・完了状況】



【活性化状況】

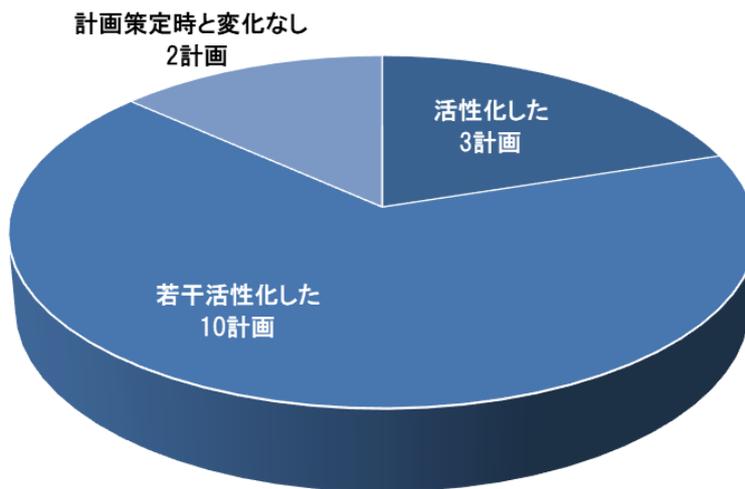


(参考①)中心市街地活性化協議会からの評価

- 対象 15 市 15 計画のうち 13 計画について、各自治体の中心市街地活性化協議会から中心市街地の活性化が見られたとされている。

(計画期間終了後の状況)	活性化した	若干活性化した	計画策定時と変化なし	計画策定時より悪化
計画数 (全15計画)	3計画	10計画	2計画	0計画

※中心市街地という単位で活性化が見られたかどうかを中心市街地活性化協議会として判断。

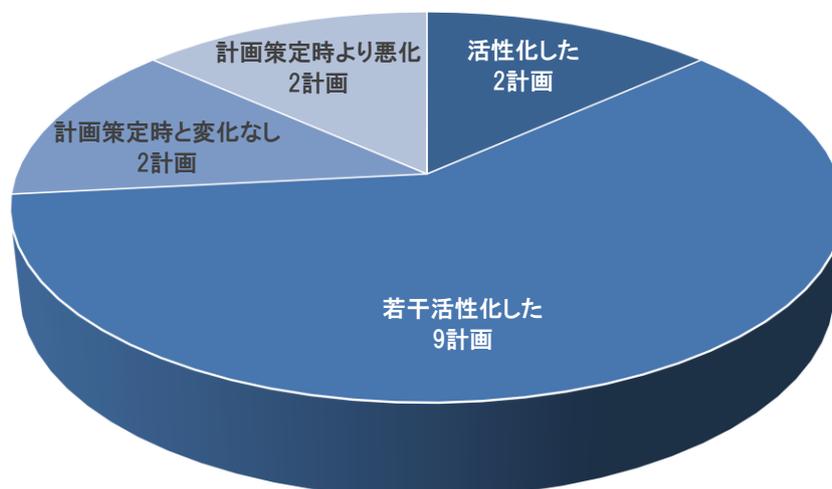


(参考②)市民からの評価、市民意識の変化

- 対象15市15計画のうち11計画について、各自治体の市民から中心市街地の活性化が見られたとされている一方、2計画については計画策定時より悪化したとされている。

(計画期間終了後の状況)	活性化した	若干活性化した	計画策定時と変化なし	計画策定時より悪化
計画数 (全15計画)	2計画	9計画	2計画	2計画

※中心市街地の活性化状況について市民意識調査等により市民の声を聴取し、市民意識の変化を総合的に判断。



Ⅲ. 目標指標分野別分析結果の概要

各自治体が最終フォローアップを行った目標指標を5分野に分類し、各分野の関連する事業の進捗状況、目標達成状況、基準値からの改善状況等について分析した。

(1) 集計結果

目標指標分野別集計結果

- 各自治体が最終フォローアップを行った目標指標に係る関連する事業の進捗・完了状況及び目標達成の状況等について、5つの目標指標分野別に集計を行った。

達成状況	全体	①にぎわいの創出	②街なか居住の推進	③経済活力の向上	④公共交通の利便の増進	⑤その他
A	17	7	2	8	—	—
a	0	0	0	0	—	—
B1	3	0	1	2	—	—
b1	0	0	0	0	—	—
B2	9	3	4	2	—	—
b2	0	0	0	0	—	—
C	16	13	3	0	—	—
c	0	0	0	0	—	—
合計	45	23	10	12	—	—

<達成状況の分類>

- A 目標達成（関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了）
- a 目標達成（関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった）
- B1 基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている（関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了）
- b1 基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている（関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった）
- B2 基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない
（関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了）
- b2 基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない
（関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった）
- C 基準値に及ばない（関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了）
- c 基準値に及ばない（関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった）

※目標値を現状数値の悪化率の抑制としている目標指標については、目標値と比較して数値が大きい場合には、「A、a」、目標値には満たないものの目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より大きい場合には「B1、b1、B2、b2」、目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より小さい場合には「C、c」としてそれぞれ算出する。

<目標指標分野と主な目標指標例>

目標指標分野	主な目標指標
①にぎわいの創出	歩行者・自転車通行量、宿泊観光客数 等
②街なか居住の推進	中心市街地における人口の社会増減数、居住人口
③経済活力の向上	営業店舗数、新規出店数 等

(2)事業の進捗状況

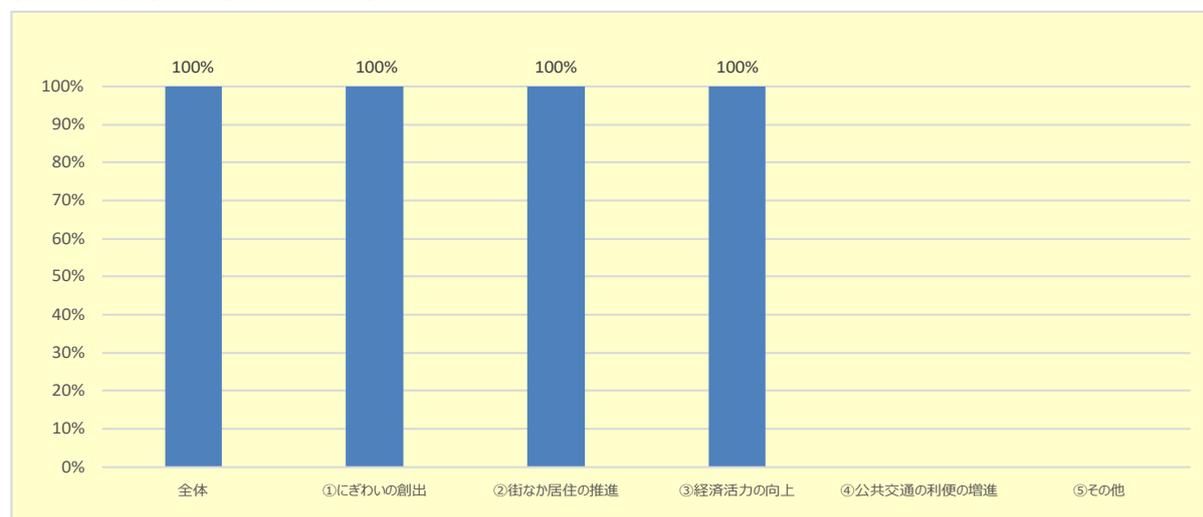
関連する事業の進捗状況に関する分析結果

○「にぎわいの創出」、「街なか居住の推進」及び「経済活力の向上」全ての事業が順調に推移している。

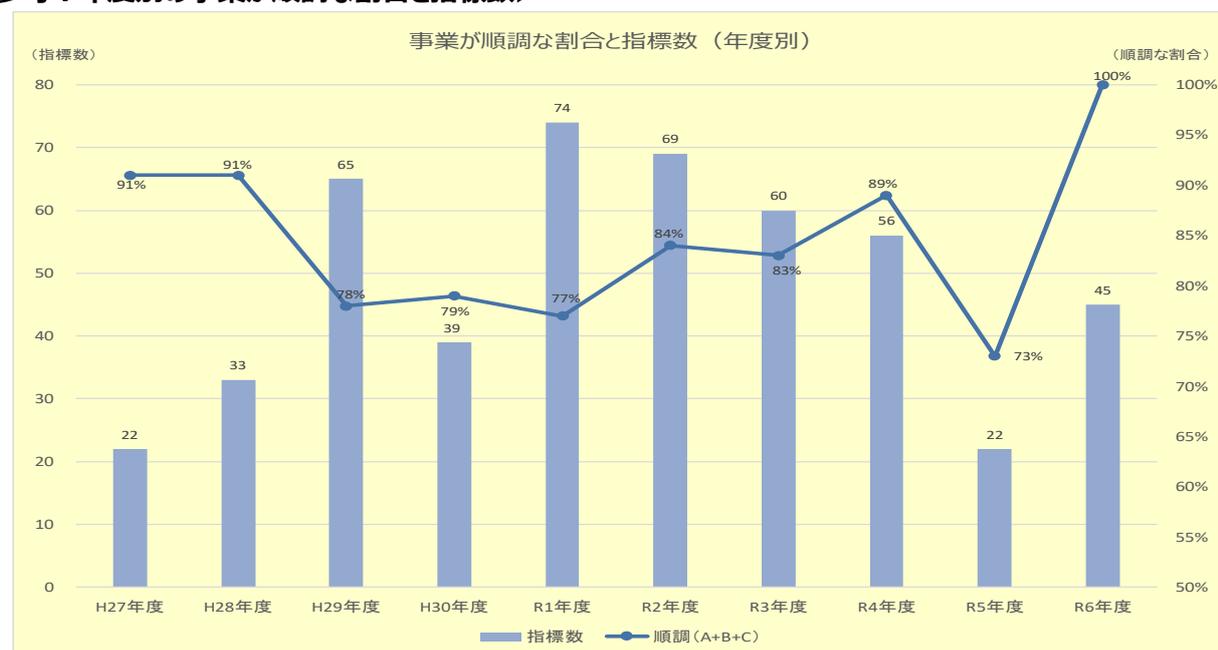
<各目標指標分野の事業の進捗状況の割合>

	全体	①にぎわいの創出	②街なか居住の推進	③経済活力の向上	④公共交通の利便の増進	⑤その他
順調(1) (A+B+C)	45	23	10	12	—	—
順調でない(2) (a+b+c)	0	0	0	0	—	—
合計(3) ((3)=(1)+(2))	45	23	10	12	—	—
事業が順調な割合 ((1)/(3))	100%	100%	100%	100%	—	—

<目標指標分野別の事業が順調な割合>



<参考：年度別の事業が順調な割合と指標数>



(3)目標達成の状況

目標達成状況に関する分析結果

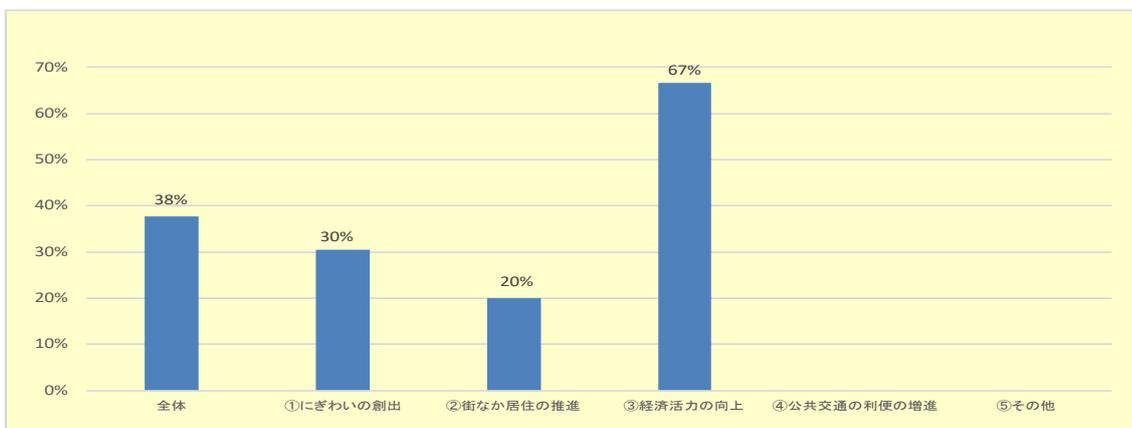
- 目標を達成した目標指標は、17指標で全体の**38%**である。(令和5年度 41%)
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成は難しかった。
- 「経済活力の向上」の目標達成率は、全体平均を上回っており、一定程度、事業の効果が発現していると考えられる。
- 一方、「にぎわいの創出」及び「街なか居住の推進」については、新型コロナウイルス感染症や原材料費の高騰による施設整備事業の遅れ、過大な目標設定などが影響し、全体平均を下回ったものと考えられる。

<各目標指標分野の目標達成状況>

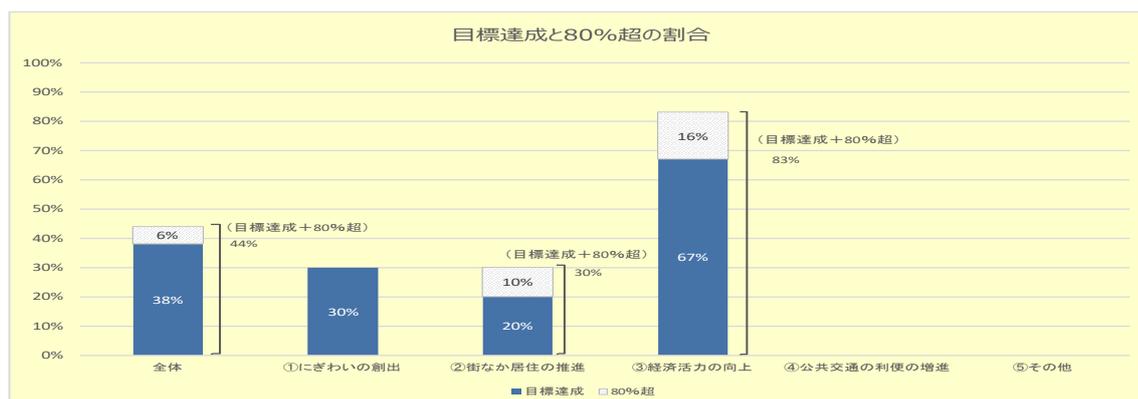
	全体	①にぎわいの創出	②街なか居住の推進	③経済活力の向上	④公共交通の利便の増進	⑤その他
目標達成(1) (A + a)	17	7	2	8	—	—
未達成(2) (B + b + C + c)	28	16	8	4	—	—
合計(3) ((3)=(1)+(2))	45	23	10	12	—	—
目標達成率(4) ((1)/(3))	38%	30%	20%	67%	—	—
概ね目標達成(5)※ (A + a + B1 + b1)	20	7	3	10	—	—
概ね目標達成率(6) ((5)/(3))	44%	30%	30%	83%	—	—

※概ね目標達成の基準は、基準値から目標値までの幅の80%を超えるものとする

<目標指標分野別目標達成率の比較>



<目標達成と概ね目標達成(80%超)の割合>



目標が達成できなかった主な要因

- 目標が達成できなかった 28 指標の主な要因は、次のとおりである。
 - ア 新型コロナウイルス感染症や原材料費の高騰等の影響により、事業の遅延が生じ、効果の発現期間が短くなり、目標指標の達成に影響が生じた。
 - イ 新型コロナウイルス感染症によるライフスタイルの変化が、「にぎわいの創出」に関する目標指標に影響を与えた。
 - ウ 計画策定時に立てた目標値が高く、物価高騰等による影響もあり達成が困難であった。
- 目標が達成できなかった要因の事例については、下記のとおりである。
 - ア の具体例について
 - ・ 主要事業の市街地再開発事業として、マンション、ホテル、商業施設等を整備するにあたり、当初令和 4 年度グランドオープン予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響や、建設物価の高騰により工事に遅れが発生し、計画最終年の令和 6 年 4 月にグランドオープンとなったため、効果の発現までの期間が短かった。
 - イ の具体例について
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響でまちに出歩く人が減り、在宅勤務やオンラインショッピングが中心となるなどライフスタイルが大きく変わった。コロナ渦に変わったライフスタイルは新型コロナウイルス感染症が終息した後も続いており、歩行者通行量をはじめとする「にぎわいの創出」に影響を与えた。
 - ウ の具体例について
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前に、過去 5 年の数値を基準値として目標値を設定したため、新型コロナウイルス感染症終息後も、感染拡大前までの数値に回復するまでに留まり、目標値まで達することが出来なかった。
 - ・ 令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が終息したため、旅行、外出需要が高まりにぎわいを見せたが、令和 6 年度は物価高騰等もあり、令和 5 年度に比べてにぎわいに落ち着きが見え、「にぎわいの創出」に影響を与えた。

(4) 基準値からの改善状況

基準値からの改善状況に関する分析結果

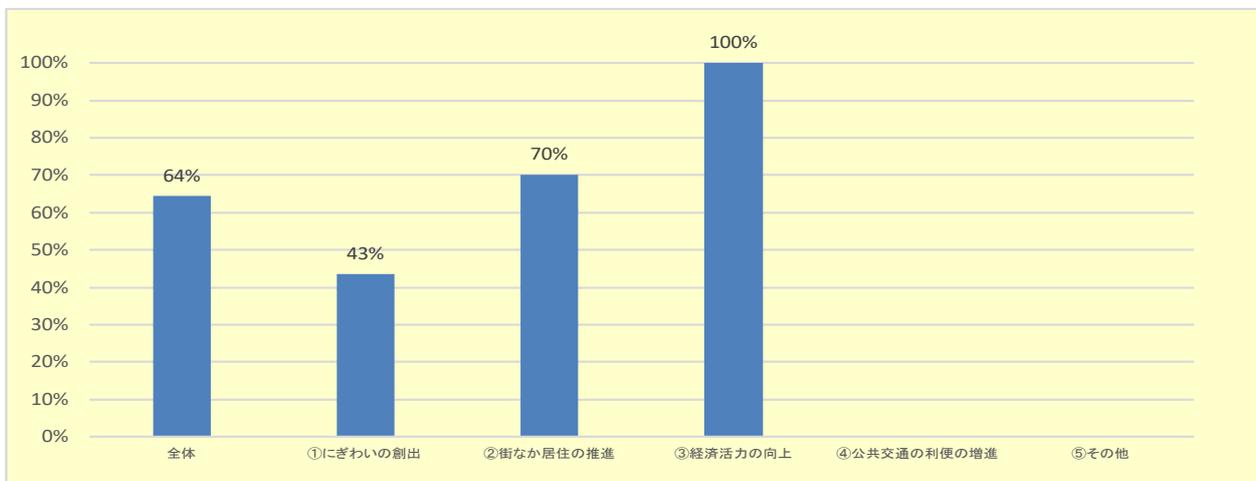
- 現況（実績値）が計画当初の状況（基準値）より改善している目標指標は、全体の**64%**である。（令和5年度 50%）
- 全体として、改善状況はコロナ渦以前の水準まで回復してきている。（令和元年度 61%）
- そのなかで「街なか居住の推進」及び「経済活力の向上」に関する目標指標は、実績値が基準値から改善している目標指標の割合（基準値改善率）が全体平均を上回っている。
- 一方、「にぎわいの創出」については、新型コロナウイルス感染症は終息したものの、感染拡大前までの数値に回復するまでに留まったことや物価高騰による購買意欲の低下などが影響し、全体平均を下回ったものと考えられる。
- 在宅勤務やオンラインショッピングなど、コロナ渦に変化したライフスタイルは新型コロナウイルス感染症終息後も続いており、外出する機会が減少していると考えられる。

<各目標指標分野の改善状況>

	全体	①にぎわいの創出	②街なか居住の推進	③経済活力の向上	④公共交通の利便の増進	⑤その他
基準値より改善(1) ^(注1) (A + a + B + b)	29	10	7	12	—	—
基準値より悪化(2) ^(注1) (C + c)	16	13	3	0	—	—
合計(3) ((3)=(1)+(2))	45	23	10	12	—	—
基準値改善率 ((1)/(3))	64%	43%	70%	100%	—	—
上記のうち、 事業の進捗が 予定通りだった もの	基準値より改善(4) ^(注1) (A + B)	10	7	12	—	—
	基準値より悪化(5) ^(注1) (C)	13	3	0	—	—
	合計 ((6)=(4)+(5))	23	10	12	—	—
	基準値改善率 ((4)/(6))	43%	70%	100%	—	—

※関連する事業の進捗状況及び目標達成状況の分類（P4参照）のうち、「現況（実績値）が計画当初の状況（基準値）より改善している」ものは、A、a、B1、b1、B2及びb2が該当する。

<目標指標分野別基準値改善率の比較>

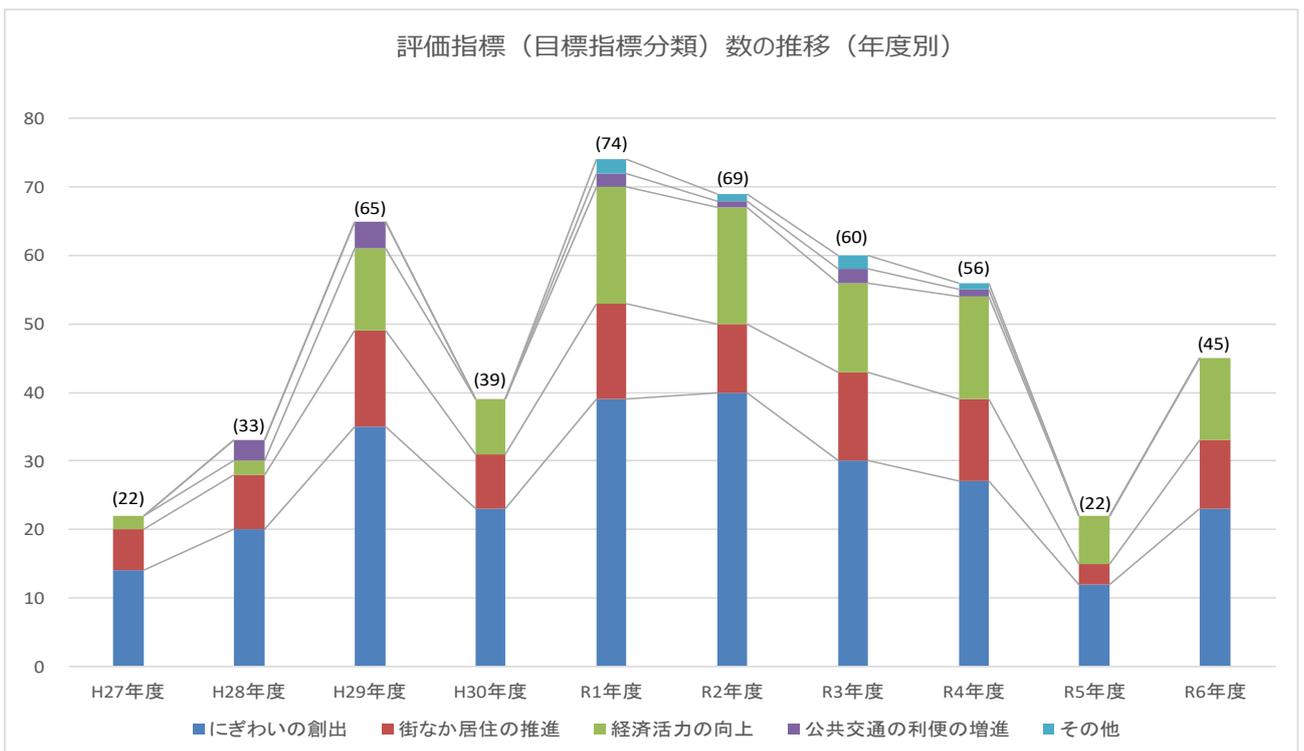
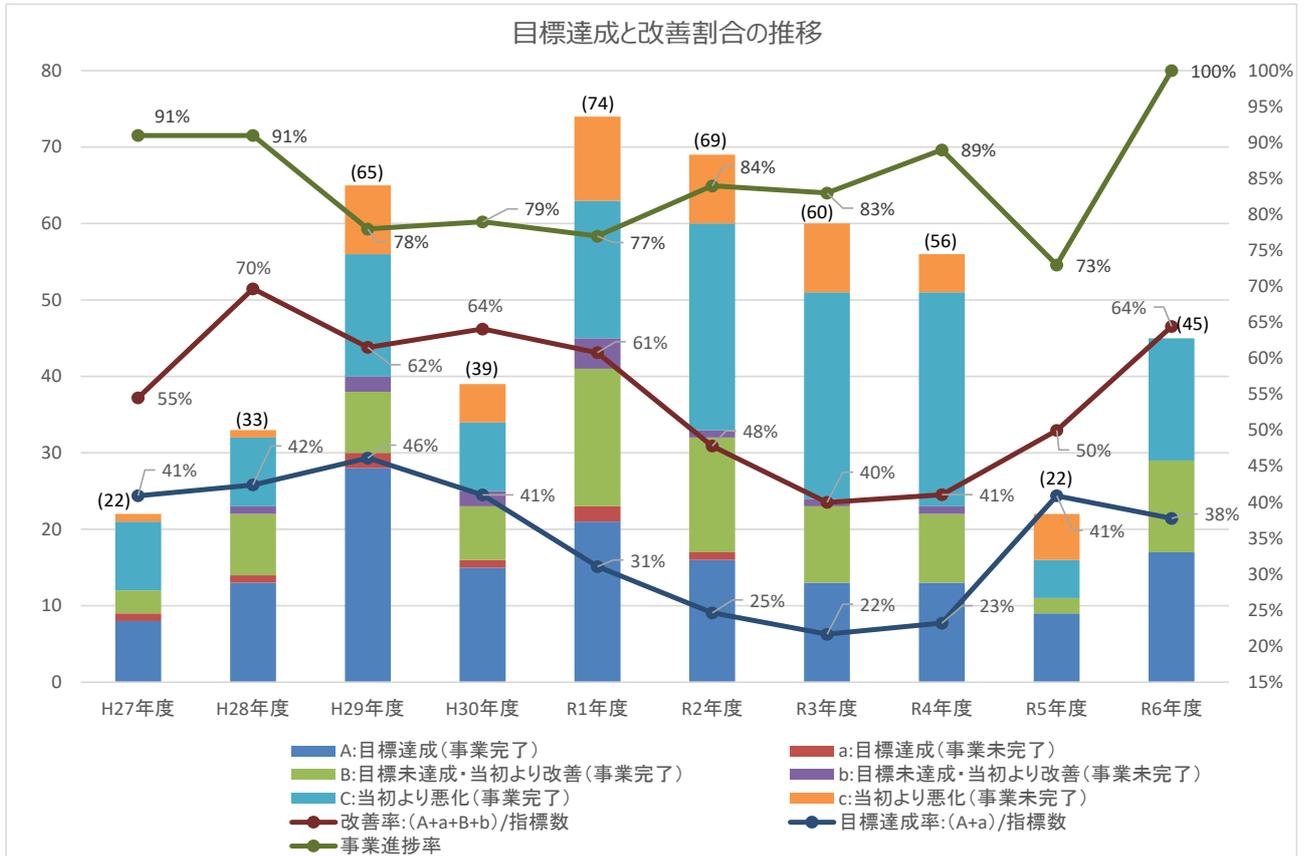


(注1) 目標値を現状数値の悪化率の抑制としている目標指標については、目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より大きい場合には「基準値より改善」、目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より小さい場合には「基準値より悪化」として算出する。

評価指標数と目標達成状況の推移

令和7年7月現在、累計152市4町296計画の中心市街地活性化基本計画が認定を受け、そのうち149市2町245計画について、計画期間終了後に最終フォローアップ報告書を作成している。(次の計画期間に入っている自治体を含む。)

最終フォローアップ報告書における、各計画の評価指標(目標指標分類)数と目標達成状況の推移は以下のとおり。



IV. 関連する事業の進捗・完了状況及び目標達成状況に関する各自治体からの報告

都道府県名	市町村名	目標	目標指標	達成状況	進捗・完了状況	活性化状況		
						自治体評価	中活協議会評価	市民評価
平成31年3月18日認定								
滋賀県	草津市	歴史と景観を活かした“ひとが行き交うまち”(回遊性の向上)	歩行者通行量(休日)	B2	○	A	A	A
		「健幸づくり」を核として“ひとが集い交流するまち”(集客力の向上)	健幸・観光・交流施設の利用者数	A				
		魅力ある店舗がつながる“にぎわいが広がるまち”(エリア経済の進展)	営業店舗数	A				
新潟県	長岡市	まちを「歩く人」を増やす	大手通交差点より西側の歩行者・自転車通行量(平日)(人/日)	C	○	B	B	B
		まちを「歩く人」を増やす	中心市街地内の起業数(件/5年)	B1				
		まちに「集う若者」を増やす	30代以下のまちなか常住人口(人)	C				
令和元年6月19日認定								
香川県	高松市	サンポートエリアにおける高次(広域)都市サービス機能の充実による誘客力の向上	中心市街地内の主要観光施設年間入込客数	C	○	B	B	B
		中心市街地の魅力発信による回遊性の向上	歩行者等通行量	A				
			新規出店数	B2				
			拠点間交流と住環境の整備による地域価値の向上	B2				
令和元年12月26日認定								
茨城県	鹿嶋市	人が集う魅力的な商業エリアの再生	新規出店数	A	○	A	A	A
		来街者が滞遊するまちづくり	平日日平均歩行者通行量	C				
大阪府	茨木市	中心商業機能の質の更新	計画掲載事業を活用した新規出店数	B1	○	A	A	B
		滞在・活動の場の創出	平日昼間の歩行者通行量(平日:9~17時)	A				
島根県	松江市	既存ストックの活用などによる活気の創出	遊休不動産の事業化件数	A	○	A	B	B
		水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり	水辺の公共空間の活用日数	A				
		歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大	中心市街地内の外国人宿泊客数	C				
			中心市街地内の宿泊客数	C				
令和2年3月30日認定								
千葉県	木更津市	みなとまちの新たな拠点づくりと回遊性向上	休日歩行者通行量(人)	A	○	B	B	C
		住環境の向上による街なか居住の推進	中心市街地内の人口の社会増減(人/年)	A				
		新規出店・起業の促進による商業活性化	新規出店数(件)	A				
静岡県	島田市	中心市街地の常住人口の増加	常住人口(社会増)(人)	C	○	B	B	C
		中心市街地への来街機会の増加	歩行者(歩行者+自転車)通行量(人/日)	C				
		中心市街地の新規雇用者数の増加	開業・新規雇用者数(人)	A				
山口県	宇部市	まちなか居住の推進	中心市街地常住人口	C	○	B	B	B
		経済活力の向上	新規出店数(起業も含む)	A				
鳥取県	倉吉市	みんなで積極的に住みたくなる暮らしの賑わい再生を目指すまち	中心市街地全体の人口の社会増減(人)	B1	○	C	C	D
		歴史的資源とポップカルチャーを活かし観光おもてなし力の向上を目指すまち	中心市街地における観光入込客数(人)	C				
		多種多様なビジネスが活性化し地域の商業活動の発展を目指すまち	中心市街地における創業事業所数(件/年)	A				
山口県	周南市	みんなが行きたくなる、魅力あるモノ・コトがあふれるまち	物販・サービス業等新規出店数(件)	B2	○	B	B	B
			中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)	C				
			平日歩行者等通行量(人/日)	C				
北海道	帯広市	平日昼間を中心とした来街者を増やす	歩行者通行量(平日昼間9~17時)	C	○	C	C	D
		まちなか居住者を増やす	まちなか居住者数	B2				
宮城県	石巻市	定住人口の増加	中心市街地における社会増減数(人)	B2	○	B	B	B
		交流人口の増加	2施設の利用者数(人/年)	A				
			歩行者・自転車通行量(人)	C				
			市民活動参加者数の増加	A				
群馬県	高崎市	来訪者で賑わう集客拠点ゾーンの形成	都市集客施設の利用者数の合計値	B2	○	B	B	B
		市民や来訪者が楽しく回遊できる中心市街地の形成	歩行者・自転車通行量(休日)	C				
		快適・便利な街中居住が享受できる中心市街地の形成	区域内常住人口	B2				
兵庫県	姫路市	国際観光都市「姫路」ブランドの確立	歩行者・自転車通行量	C	○	B	B	B
		姫路城、商店街、駅前を結ぶ魅力の創出	新規出店舗数	A				
		楽しさと安心感のある多世代居住の推進	居住者数	A				

<各目標の達成状況> (自治体評価)

- A 目標達成 (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
- a 目標達成 (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)
- B1 基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
- b1 基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)
- B2 基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
- b2 基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)
- C 基準値に及ばない (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
- c 基準値に及ばない (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)

<事業の進捗・完了状況> (自治体評価)

- 概ね予定通り進捗・完了した
- ▲ 予定通り進捗・完了しなかった

<活性化状況> (自治体評価、中心市街地活性化協議会評価、市民評価)

- A 活性化した
- B 若干活性化した
- C 計画策定時と変化なし
- D 計画策定時より悪化